



StorageGRIDカスタム操作

StorageGRID software

NetApp
December 03, 2025

目次

StorageGRIDカスタム操作	1
StorageGRIDカスタム操作	1
GETバケットの一貫性	1
リクエスト例	2
応答	2
応答例	2
PUTバケットの一貫性	3
要求	3
リクエスト例	4
GETバケットの最終アクセス時刻	4
リクエスト例	4
応答例	5
バケットの最終アクセス時刻をPUTする	5
リクエスト例	6
バケットメタデータ通知設定の削除	6
リクエスト例	6
バケットメタデータ通知設定の取得	6
リクエスト例	7
応答	7
応答例	9
PUTバケットメタデータ通知設定	10
要求	10
リクエスト例	12
検索統合サービスによって生成されたJSON	14
メタデータ通知に含まれるオブジェクトメタデータ	15
GETストレージ使用量リクエスト	16
リクエスト例	16
応答例	16
バージョン管理	17
従来のコンプライアンスに対するバケットリクエストのサポート終了	17
従来のコンプライアンスに対するバケットリクエストのサポート終了	17
非推奨: コンプライアンスのための CreateBucket リクエストの変更	18
非推奨: GETバケットコンプライアンスリクエスト	19
非推奨: PUTバケットコンプライアンスリクエスト	20

StorageGRIDカスタム操作

StorageGRIDカスタム操作

StorageGRIDシステムは、S3 REST API に追加されたカスタム操作をサポートします。

次の表は、StorageGRIDでサポートされているカスタム操作を示しています。

処理	説明
"GETバケットの一貫性"	特定のバケットに適用されている一貫性を返します。
"PUTバケットの一貫性"	特定のバケットに適用される一貫性を設定します。
"GETバケットの最終アクセス時刻"	特定のバケットの最終アクセス時間の更新が有効になっているか無効になっているかを返します。
"バケットの最終アクセス時刻をPUTする"	特定のバケットの最終アクセス時間の更新を有効または無効にすることができます。
"バケットメタデータ通知設定の削除"	特定のバケットに関連付けられたメタデータ通知構成 XML を削除します。
"バケットメタデータ通知設定の取得"	特定のバケットに関連付けられたメタデータ通知構成 XML を返します。
"PUTバケットメタデータ通知設定"	バケットのメタデータ通知サービスを設定します。
"ストレージ使用量の取得"	アカウントと、アカウントに関連付けられている各バケットで使用されているストレージの合計量を示します。
"非推奨: コンプライアンス設定による CreateBucket"	非推奨およびサポートされていません: コンプライアンスを有効にして新しいバケットを作成することはできなくなりました。
"非推奨: GETバケットコンプライアンス"	非推奨ですがサポートされています: 既存のレガシーコンプライアンスバケットに対して現在有効なコンプライアンス設定を返します。
"非推奨: PUTバケットのコンプライアンス"	非推奨ですがサポートされています: 既存のレガシーコンプライアンスバケットのコンプライアンス設定を変更できます。

GETバケットの一貫性

GET Bucket 整合性リクエストを使用すると、特定のバケットに適用されている整合性

を判別できます。

デフォルトの一貫性は、新しく作成されたオブジェクトの書き込み後の読み取りを保証するように設定されています。

この操作を完了するには、s3:GetBucketConsistency 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

リクエスト例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-consistency HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答

レスポンスXMLでは、`<Consistency>`次のいずれかの値を返します。

一貫性	説明
全て	すべてのノードがデータを直ちに受信します。そうでない場合、要求は失敗します。
strong-global	すべてのサイトにわたるすべてのクライアント要求に対して、書き込み後の読み取りの一貫性を保証します。
strong-site	サイト内のすべてのクライアント要求に対して、書き込み後の読み取り一貫性を保証します。
新規書き込み後の読み取り	(デフォルト) 新しいオブジェクトに対しては書き込み後の読み取り一貫性を提供し、オブジェクトの更新に対しては最終的な一貫性を提供します。高可用性とデータ保護の保証を提供します。ほとんどの場合に推奨されます。
使用可能	新しいオブジェクトとオブジェクトの更新の両方に対して最終的な一貫性を提供します。S3 バケットの場合は、必要な場合にのみ使用してください (たとえば、めったに読み取られないログ値を含むバケットの場合や、存在しないキーに対する HEAD または GET 操作の場合など)。S3 FabricPoolバケットではサポートされていません。

応答例

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Fri, 18 Sep 2020 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/11.5.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Consistency xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">read-after-
new-write</Consistency>
```

関連情報

["一貫性の値"](#)

PUT バケットの一貫性

PUT Bucket 整合性リクエストを使用すると、バケットに対して実行される操作に適用する整合性を指定できます。

デフォルトの一貫性は、新しく作成されたオブジェクトの書き込み後の読み取りを保証するように設定されています。

開始する前に

この操作を完了するには、s3:PutBucketConsistency 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

要求

その `x-ntap-sg-consistency` パラメータには次のいずれかの値が含まれている必要があります。

一貫性	説明
全て	すべてのノードがデータを直ちに受信します。そうでない場合、要求は失敗します。
strong-global	すべてのサイトにわたるすべてのクライアント要求に対して、書き込み後の読み取りの一貫性を保証します。
strong-site	サイト内のすべてのクライアント要求に対して、書き込み後の読み取り一貫性を保証します。

一貫性	説明
新規書き込み後の読み取り	(デフォルト) 新しいオブジェクトに対しては書き込み後の読み取り一貫性を提供し、オブジェクトの更新に対しては最終的な一貫性を提供します。高可用性とデータ保護の保証を提供します。ほとんどの場合に推奨されます。
使用可能	新しいオブジェクトとオブジェクトの更新の両方に対して最終的な一貫性を提供します。S3 バケットの場合は、必要な場合にのみ使用してください (たとえば、めったに読み取られないログ値を含むバケットの場合や、存在しないキーに対する HEAD または GET 操作の場合など)。S3 FabricPoolバケットではサポートされていません。

注: 一般的には、「新規書き込み後の読み取り」の一貫性を使用する必要があります。リクエストが正しく機能しない場合は、可能であればアプリケーションクライアントの動作を変更します。または、各 API リクエストの一貫性を指定するようにクライアントを構成します。最後の手段としてのみ、バケットレベルで一貫性を設定します。

リクエスト例

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-consistency=strong-global HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

関連情報

["一貫性の値"](#)

GET バケットの最終アクセス時刻

GET Bucket 最終アクセス時刻リクエストを使用すると、個々のバケットの最終アクセス時刻の更新が有効になっているか無効になっているかを判断できます。

この操作を完了するには、s3:GetBucketLastAccessTime 権限を持っているか、アカウントルートである必要があります。

リクエスト例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

この例では、バケットの最終アクセス時刻の更新が有効になっていることを示しています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/10.3.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LastAccessTime xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">enabled
</LastAccessTime>
```

バケットの最終アクセス時刻をPUTする

PUT Bucket 最終アクセス時刻リクエストを使用すると、個々のバケットの最終アクセス時刻の更新を有効または無効にすることができます。最終アクセス時刻の更新を無効にするとパフォーマンスが向上し、これはバージョン 10.3.0 以降で作成されたすべてのバケットのデフォルト設定になります。

この操作を完了するには、バケットに対する s3:PutBucketLastAccessTime 権限を持っているか、アカウントルートである必要があります。



StorageGRIDバージョン 10.3 以降では、すべての新しいバケットの最終アクセス時間の更新はデフォルトで無効になっています。以前のバージョンのStorageGRIDを使用して作成されたバケットがあり、新しいデフォルトの動作に一致させたい場合は、以前のバケットごとに最終アクセス時刻の更新を明示的に無効にする必要があります。PUT Bucket last access time リクエストを使用するか、テナント マネージャーのバケットの詳細ページから、最終アクセス時間の更新を有効または無効にすることができます。見る["最終アクセス時間の更新を有効または無効にする"](#)。

バケットの最終アクセス時間の更新が無効になっている場合、バケットに対する操作には次の動作が適用されます。

- GetObject、GetObjectAcl、GetObjectTagging、および HeadObject リクエストでは、最終アクセス時間が更新されません。オブジェクトは、情報ライフサイクル管理 (ILM) 評価のキューに追加されません。
- メタデータのみを更新する CopyObject および PutObjectTagging リクエストでは、最終アクセス時刻も更新されます。オブジェクトは ILM 評価のキューに追加されます。
- ソース バケットの最終アクセス時間の更新が無効になっている場合、CopyObject リクエストではソースバケットの最終アクセス時間が更新されません。コピーされたオブジェクトは、ソースバケットの ILM 評価のキューに追加されません。ただし、宛先の場合、CopyObject 要求によって最終アクセス時刻が常に更新されます。オブジェクトのコピーは、ILM 評価のキューに追加されます。
- CompleteMultipartUpload は最終アクセス時間の更新を要求します。完了したオブジェクトは、ILM 評価

のキューに追加されます。

リクエスト例

この例では、バケットの最終アクセス時間を有効にします。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=enabled HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

この例では、バケットの最終アクセス時間を無効にします。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=disabled HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

バケットメタデータ通知設定の削除

DELETE Bucket メタデータ通知構成リクエストを使用すると、構成 XML を削除して、個々のバケットの検索統合サービスを無効にすることができます。

この操作を完了するには、バケットに対する `s3:DeleteBucketMetadataNotification` 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

リクエスト例

この例では、バケットの検索統合サービスを無効にする方法を示します。

```
DELETE /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

バケットメタデータ通知設定の取得

GET Bucket メタデータ通知構成リクエストを使用すると、個々のバケットの検索統合を構成するために使用される構成 XML を取得できます。

この操作を完了するには、`s3:GetBucketMetadataNotification` 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

リクエスト例

このリクエストは、バケットのメタデータ通知設定を取得します。 bucket。

```
GET /bucket?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答

レスポンス本文には、バケットのメタデータ通知構成が含まれます。メタデータ通知構成では、検索統合用にバケットを構成する方法を決定できます。つまり、どのオブジェクトがインデックスされているか、またそのオブジェクトメタデータがどのエンドポイントに送信されているかを判別できます。

```
<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>rule-status</Status>
    <Prefix>key-prefix</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:_region:account-
ID_:domain/_mydomain/myindex/mytype_</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Rule-2</ID>
    ...
  </Rule>
  ...
</MetadataNotificationConfiguration>
```

各メタデータ通知構成には、1つ以上のルールが含まれます。各ルールは、適用されるオブジェクトと、StorageGRIDがオブジェクトメタデータを送信する宛先を指定します。宛先は、StorageGRIDエンドポイントのURNを使用して指定する必要があります。

Name	説明	必須
メタデータ通知構成	メタデータ通知のオブジェクトと宛先を指定するために使用されるルールのコンテナ タグ。 1つ以上の Rule 要素が含まれます。	はい

Name	説明	必須
Rule	<p>指定されたインデックスにメタデータを追加するオブジェクトを識別するルールのコンテナ タグ。</p> <p>プレフィックスが重複するルールは拒否されます。</p> <p>MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれません。</p>	はい
ID	<p>ルールの一意的識別子。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	いいえ
ステータス	<p>ステータスは「有効」または「無効」になります。無効にされているルールに対してはアクションは実行されません。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい
接頭辞	<p>プレフィックスに一致するオブジェクトはルールの影響を受け、そのメタデータは指定された宛先に送信されます。</p> <p>すべてのオブジェクトを一致させるには、空のプレフィックスを指定します。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい
デスティネーション	<p>ルールの宛先のコンテナ タグ。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい

Name	説明	必須
壺	<p>オブジェクト メタデータが送信される宛先の URN。次のプロパティを持つStorageGRIDエンドポイントの URN である必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • `es` 3 番目の要素である必要があります。 • URNは、メタデータが格納されているインデックスとタイプで終わる必要があります。形式は次のようになります。 domain-name/myindex/mytype。 <p>エンドポイントは、テナント マネージャーまたはテナント管理 API を使用して構成されます。それらは次の形式をとります:</p> <ul style="list-style-type: none"> • arn:aws:es:_region:account-ID_:domain/mydomain/myindex/mytype • urn:mysite:es:::mydomain/myindex/mytype <p>構成 XML を送信する前にエンドポイントを構成する必要があります。そうしないと、404 エラーが発生して構成が失敗します。</p> <p>Urn は Destination 要素に含まれます。</p>	はい

応答例

XMLは、`<MetadataNotificationConfiguration></MetadataNotificationConfiguration>` tags は、バケットの検索統合エンドポイントとの統合がどのように構成されているかを示します。この例では、オブジェクトメタデータはElasticsearchインデックスに送信されています。`current`と名付けられたタイプ `2017`AWSドメインでホストされている `records`。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 20 Jul 2017 18:24:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/11.0.0
x-amz-request-id: 3832973499
Content-Length: 264
Content-Type: application/xml
```

```
<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>2017</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-east-
1:3333333:domain/records/current/2017</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

関連情報

["テナントアカウントを使用する"](#)

PUT バケットメタデータ通知設定

PUT バケット メタデータ通知構成リクエストを使用すると、個々のバケットの検索統合サービスを有効にすることができます。リクエスト本文に指定するメタデータ通知構成 XML は、メタデータが宛先検索インデックスに送信されるオブジェクトを指定します。

この操作を完了するには、バケットに対する s3:PutBucketMetadataNotification 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

要求

リクエストには、リクエスト本文にメタデータ通知構成が含まれている必要があります。各メタデータ通知構成には、1 つ以上のルールが含まれます。各ルールは、適用されるオブジェクトと、StorageGRIDがオブジェクトメタデータを送信する宛先を指定します。

オブジェクトは、オブジェクト名のプレフィックスでフィルタリングできます。たとえば、プレフィックスを持つオブジェクトのメタデータを送信できます。 /images 1つの宛先に、接頭辞を持つオブジェクト `videos` 別の人に。

プレフィックスが重複する構成は無効であり、送信時に拒否されます。たとえば、接頭辞を持つオブジェクトに対する1つのルールを含む構成では、`test`接頭辞を持つオブジェクトに対する2番目のルール `test2` 許可されません。

宛先は、StorageGRIDエンドポイントの URN を使用して指定する必要があります。メタデータ通知設定が送信されるときにエンドポイントが存在している必要があります。存在しない場合、リクエストは失敗します。400 Bad Request エラーメッセージは次のようになります。`Unable to save the metadata notification (search) policy. The specified endpoint URN does not exist: URN.`

```
<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>rule-status</Status>
    <Prefix>key-prefix</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:region:account-
ID:domain/mydomain/myindex/mytype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Rule-2</ID>
    ...
  </Rule>
  ...
</MetadataNotificationConfiguration>
```

この表では、メタデータ通知構成 XML の要素について説明します。

Name	説明	必須
メタデータ通知構成	メタデータ通知のオブジェクトと宛先を指定するために使用されるルールのコテナ タグ。 1 つ以上の Rule 要素が含まれます。	はい
Rule	指定されたインデックスにメタデータを追加するオブジェクトを識別するルールのコテナ タグ。 プレフィックスが重複するルールは拒否されます。 MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれます。	はい
ID	ルールの一意的識別子。 ルール要素に含まれます。	いいえ

Name	説明	必須
ステータス	<p>ステータスは「有効」または「無効」になります。無効にされているルールに対してはアクションは実行されません。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい
接頭辞	<p>プレフィックスに一致するオブジェクトはルールの影響を受け、そのメタデータは指定された宛先に送信されます。</p> <p>すべてのオブジェクトを一致させるには、空のプレフィックスを指定します。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい
デスティネーション	<p>ルールの宛先のコンテナ タグ。</p> <p>ルール要素に含まれます。</p>	はい
壺	<p>オブジェクト メタデータが送信される宛先の URN。次のプロパティを持つStorageGRIDエンドポイントの URN である必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • `es` 3 番目の要素である必要があります。 • URNは、メタデータが格納されているインデックスとタイプで終わる必要があります。形式は次のようになります。 domain-name/myindex/mytype 。 <p>エンドポイントは、テナント マネージャーまたはテナント管理 API を使用して構成されます。それらは次の形式をとります:</p> <ul style="list-style-type: none"> • arn:aws:es:region:account-ID:domain/mydomain/myindex/mytype • urn:mysite:es:::mydomain/myindex/mytype <p>構成 XML を送信する前にエンドポイントを構成する必要があります。そうしないと、404 エラーが発生して構成が失敗します。</p> <p>Urn は Destination 要素に含まれます。</p>	はい

リクエスト例

この例では、バケットの検索統合を有効にする方法を示します。この例では、すべてのオブジェクトのオブジ

ェクト メタデータが同じ宛先に送信されます。

```
PUT /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix></Prefix>
    <Destination>
      <Urn>urn:sgws:es:::sgws-notifications/test1/all</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

この例では、プレフィックスに一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータ `images` 一つの宛先に送信される一方、プレフィックスに一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータは `videos` 2 番目の宛先に送信されます。

```
PUT /graphics?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Images-rule</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>/images</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-east-1:3333333:domain/es-
domain/graphics/imagetype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Videos-rule</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>/videos</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-west-1:22222222:domain/es-
domain/graphics/videotype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

検索統合サービスによって生成されたJSON

バケットの検索統合サービスを有効にすると、オブジェクトのメタデータまたはタグが追加、更新、または削除されるたびに、JSON ドキュメントが生成され、宛先エンドポイントに送信されます。

この例では、キーを持つオブジェクトが生成された場合に生成されるJSONの例を示します。SGWS/Tagging.txt バケットに作成されます `test`。その `test` バケットはバージョン管理されていないため、`versionId` タグが空です。

```

{
  "bucket": "test",
  "key": "SGWS/Tagging.txt",
  "versionId": "",
  "accountId": "86928401983529626822",
  "size": 38,
  "md5": "3d6c7634a85436eee06d43415012855",
  "region": "us-east-1",
  "metadata": {
    "age": "25"
  },
  "tags": {
    "color": "yellow"
  }
}

```

メタデータ通知に含まれるオブジェクトメタデータ

この表には、検索統合が有効になっているときに宛先エンドポイントに送信される JSON ドキュメントに含まれるすべてのフィールドがリストされています。

ドキュメント名には、バケット名、オブジェクト名、バージョン ID (存在する場合) が含まれます。

タイプ	アイテム名	説明
バケットとオブジェクトの情報	バケット	バケットの名前
バケットとオブジェクトの情報	キー	オブジェクトキー名
バケットとオブジェクトの情報	バージョンID	オブジェクトバージョン (バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの場合)
バケットとオブジェクトの情報	地域	バケット領域の例 us-east-1
システムメタデータ	サイズ	HTTPクライアントに表示されるオブジェクトサイズ (バイト単位)
システムメタデータ	md5	オブジェクトハッシュ
ユーザーメタデータ	メタデータ <i>key:value</i>	オブジェクトのすべてのユーザーメタデータ (キーと値のペア)

タイプ	アイテム名	説明
タグ	タグ <i>key:value</i>	オブジェクトに定義されたすべてのオブジェクトタグ（キーと値のペア）



タグとユーザー メタデータの場合、StorageGRID は日付と数値を文字列または S3 イベント通知として Elasticsearch に渡します。これらの文字列を日付または数値として解釈するように Elasticsearch を構成するには、動的フィールド マッピングと日付形式のマッピングに関する Elasticsearch の指示に従います。検索統合サービスを構成する前に、インデックスで動的フィールド マッピングを有効にする必要があります。ドキュメントのインデックスが作成された後は、インデックス内のドキュメントのフィールド タイプを編集することはできません。

関連情報

["テナントアカウントを使用する"](#)

GET ストレージ使用量リクエスト

GET ストレージ使用量リクエストは、アカウントで使用されているストレージの合計量と、アカウントに関連付けられている各バケットのストレージ量を通知します。

アカウントとそのバケットで使用されているストレージの量は、ListBuckets リクエストを修正することで取得できます。`x-ntap-sg-usage` クエリパラメータ。バケット ストレージの使用量は、システムによって処理される PUT および DELETE 要求とは別に追跡されます。特にシステムの負荷が高い場合、リクエストの処理に基づいて使用量の値が予想値と一致するまでに多少の遅延が発生する可能性があります。

デフォルトでは、StorageGRID は強力なグローバル一貫性を使用して使用状況情報を取得しようとします。強力なグローバル一貫性を実現できない場合、StorageGRID は強力なサイト一貫性で使用状況情報を取得しようとします。

この操作を完了するには、s3:ListAllMyBuckets 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

リクエスト例

```
GET /?x-ntap-sg-usage HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

この例では、2つのバケットに4つのオブジェクトと12バイトのデータがあるアカウントを示しています。各バケットには2つのオブジェクトと6バイトのデータが含まれます。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 00:49:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/10.2.0
x-amz-request-id: 727237123
Content-Length: 427
Content-Type: application/xml
```

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<UsageResult xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01">
<CalculationTime>2014-11-19T05:30:11.000000Z</CalculationTime>
<ObjectCount>4</ObjectCount>
<DataBytes>12</DataBytes>
<Buckets>
<Bucket>
<Name>bucket1</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
<Bucket>
<Name>bucket2</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
</Buckets>
</UsageResult>
```

バージョン管理

保存されたすべてのオブジェクトバージョンは、`ObjectCount` そして `DataBytes` 応答内の値。削除マーカは追加されません `ObjectCount` 合計。

関連情報

["一貫性の値"](#)

従来のコンプライアンスに対するバケット リクエストのサポート終了

従来のコンプライアンスに対するバケット リクエストのサポート終了

従来のコンプライアンス機能を使用して作成されたバケットを管理するには、StorageGRID S3 REST API を使用する必要がある場合があります。

コンプライアンス機能は廃止されました

以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったStorageGRIDコンプライアンス機能は廃止され、S3 オブジェクト ロックに置き換えられました。

以前にグローバルコンプライアンス設定を有効にしていた場合、StorageGRID 11.6 ではグローバル S3 オブジェクトロック設定が有効になっています。コンプライアンスを有効にした新しいバケットを作成することはできなくなりました。ただし、必要に応じて、StorageGRID S3 REST API を使用して、既存のレガシー コンプライアンス バケットを管理することができます。

- ["S3 REST API を使用して S3 オブジェクトロックを設定する"](#)
- ["ILMでオブジェクトを管理する"](#)
- ["NetAppナレッジベース: StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

非推奨のコンプライアンス リクエスト:

- ["非推奨 - コンプライアンスのためのPUT Bucketリクエストの変更"](#)

SGCompliance XML 要素は非推奨です。以前は、PUT Bucket リクエストのオプションの XML リクエスト本文にこのStorageGRIDカスタム要素を含めることで、準拠バケットを作成できました。

- ["非推奨 - GET バケットコンプライアンス"](#)

GET Bucket コンプライアンス リクエストは非推奨です。ただし、このリクエストを引き続き使用して、既存のレガシー コンプライアンス バケットに現在有効なコンプライアンス設定を確認することはできません。

- ["非推奨 - PUT バケットのコンプライアンス"](#)

PUT Bucket コンプライアンス リクエストは非推奨です。ただし、このリクエストを引き続き使用して、既存のレガシー コンプライアンス バケットのコンプライアンス設定を変更することはできます。たとえば、既存のバケットを法的保留状態にしたり、保持期間を延長したりできます。

非推奨: コンプライアンスのための **CreateBucket** リクエストの変更

SGCompliance XML 要素は非推奨です。以前は、このStorageGRIDカスタム要素を CreateBucket リクエストのオプションの XML リクエスト本文に含めることで、準拠バケットを作成できました。



以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったStorageGRIDコンプライアンス機能は廃止され、S3 オブジェクト ロックに置き換えられました。詳細については、以下を参照してください。

- ["S3 REST API を使用して S3 オブジェクトロックを設定する"](#)
- ["NetAppナレッジベース: StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

コンプライアンスを有効にした新しいバケットを作成することはできなくなりました。コンプライアンスのための CreateBucket リクエストの変更を使用して新しいコンプライアンス バケットを作成しようとすると、次のエラー メッセージが返されます。

The Compliance feature is deprecated.

Contact your StorageGRID administrator if you need to create new Compliant buckets.

非推奨: GET バケットコンプライアンスリクエスト

GET Bucket コンプライアンス リクエストは非推奨です。ただし、このリクエストを引き続き使用して、既存のレガシー コンプライアンス バケットに現在有効なコンプライアンス設定を確認することはできます。



以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったStorageGRIDコンプライアンス機能は廃止され、S3 オブジェクト ロックに置き換えられました。詳細については、以下を参照してください。

- ["S3 REST API を使用して S3 オブジェクトロックを設定する"](#)
- ["NetAppナレッジベース: StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

この操作を完了するには、s3:GetBucketCompliance 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

リクエスト例

この例のリクエストでは、バケットのコンプライアンス設定を確認できます。 mybucket 。

```
GET /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

レスポンスXMLでは、`<SGCompliance>`バケットに有効なコンプライアンス設定を一覧表示します。このサンプル応答は、オブジェクトがグリッドに取り込まれた時点から 1 年間 (525,600 分) 各オブジェクトが保持されるバケットのコンプライアンス設定を示しています。現在、このバケットには法的保留はありません。各オブジェクトは 1 年後に自動的に削除されます。

```

HTTP/1.1 200 OK
Date: date
Connection: connection
Server: StorageGRID/11.1.0
x-amz-request-id: request ID
Content-Length: length
Content-Type: application/xml

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>525600</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>>false</LegalHold>
  <AutoDelete>>true</AutoDelete>
</SGCompliance>

```

Name	説明
保持期間 (分)	このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間の長さ (分)。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれた時点で開始されます。
法的保留	<ul style="list-style-type: none"> • True: このバケットは現在、法的保留中です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了していても、法的保留が解除されるまで削除できません。 • False: このバケットは現在、法的保留の対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了すると削除できます。
自動削除	<ul style="list-style-type: none"> • True: バケットが法的保留中でない限り、このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了すると自動的に削除されます。 • False: 保持期間が終了しても、このバケット内のオブジェクトは自動的に削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

エラー応答

バケットが準拠して作成されていない場合、レスポンスのHTTPステータスコードは次のようになります。
404 Not Found S3エラーコードは XNoSuchBucketCompliance。

非推奨: PUT バケットコンプライアンスリクエスト

PUT Bucket コンプライアンス リクエストは非推奨です。ただし、このリクエストを引き続き使用して、既存のレガシー コンプライアンス バケットのコンプライアンス設定を変更することはできます。たとえば、既存のバケットを法的保留状態にしたり、保持期間を延長したりできます。

以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったStorageGRIDコンプライアンス機能は廃止され、S3 オブジェクト ロックに置き換えられました。詳細については、以下を参照してください。



- ["S3 REST API を使用して S3 オブジェクトロックを設定する"](#)
- ["NetAppナレッジベース: StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

この操作を完了するには、s3:PutBucketCompliance 権限を持っているか、アカウント ルートである必要があります。

PUT Bucket コンプライアンス リクエストを発行するときは、コンプライアンス設定のすべてのフィールドに値を指定する必要があります。

リクエスト例

この例のリクエストは、バケットのコンプライアンス設定を変更します。mybucket。この例では、`mybucket` オブジェクトがグリッドに取り込まれた時点から、1 年間ではなく 2 年間 (1,051,200 分) 保持されるようになりました。このバケットには法的拘束力はありません。各オブジェクトは 2 年後に自動的に削除されます。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization name
Host: host
Content-Length: 152

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>1051200</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>>false</LegalHold>
  <AutoDelete>>true</AutoDelete>
</SGCompliance>
```

Name	説明
保持期間 (分)	<p>このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間の長さ (分)。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれた時点で開始されます。</p> <p>重要 RetentionPeriodMinutes に新しい値を指定する場合は、バケットの現在の保持期間以上の値を指定する必要があります。バケットの保持期間が設定されると、その値を減らすことはできず、増やすことしかできません。</p>

Name	説明
法的保留	<ul style="list-style-type: none"> • True: このバケットは現在、法的保留中です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了していても、法的保留が解除されるまで削除できません。 • False: このバケットは現在、法的保留の対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了すると削除できます。
自動削除	<ul style="list-style-type: none"> • True: バケットが法的保留中でない限り、このバケット内のオブジェクトは、保持期間が終了すると自動的に削除されます。 • False: 保持期間が終了しても、このバケット内のオブジェクトは自動的に削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

コンプライアンス設定の一貫性

PUT Bucket コンプライアンス リクエストを使用して S3 バケットのコンプライアンス設定を更新すると、StorageGRID はグリッド全体でバケットのメタデータを更新しようとします。デフォルトでは、StorageGRIDは強力なグローバル 整合性を使用して、バケット メタデータを含むすべてのデータ センター サイトとすべてのストレージ ノードで、変更されたコンプライアンス設定に対する書き込み後の読み取り整合性が確保されることを保証します。

データセンターサイトまたはサイト内の複数のストレージノードが利用できないためにStorageGRIDが*強力なグローバル*一貫性を実現できない場合、応答のHTTPステータスコードは次のようになります。 503 Service Unavailable.

この応答を受け取った場合は、グリッド管理者に連絡して、必要なストレージ サービスができるだけ早く利用できるようにする必要があります。グリッド管理者が各サイトで十分なストレージ ノードを用意できない場合、テクニカル サポートは、*強力なサイト*の一貫性を強制して失敗した要求を再試行するように指示することがあります。



テクニカル サポートから指示された場合、またはこのレベルを使用した場合の潜在的な結果を理解していない限り、PUT バケット コンプライアンスに対して **Strong-site** の一貫性を強制しないでください。

一貫性が **Strong-site** に低下すると、StorageGRID は、更新されたコンプライアンス設定がサイト内のクライアント要求に対してのみ書き込み後の読み取り一貫性を持つことを保証します。つまり、すべてのサイトとストレージ ノードが利用可能になるまで、StorageGRIDシステムではこのバケットに対して一時的に複数の矛盾した設定が存在する可能性があります。設定に一貫性がないと、予期しない望ましくない動作が発生する可能性があります。たとえば、バケットをリーガルホールドの対象とし、一貫性を低く強制した場合、一部のデータセンター サイトではバケットの以前のコンプライアンス設定（つまり、リーガルホールドの解除）が引き続き有効になる可能性があります。その結果、法的保留中であると思われるオブジェクトは、保持期間の期限が切れると、ユーザーまたは AutoDelete (有効になっている場合) によって削除される可能性があります。

*Strong-site*一貫性の使用を強制するには、PUT Bucketコンプライアンスリクエストを再発行し、Consistency-Control HTTP リクエスト ヘッダーは次のとおりです。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Consistency-Control: strong-site
```

エラー応答

- バケットが準備して作成されていない場合、レスポンスのHTTPステータスコードは次のようになります。404 Not Found。
- もし RetentionPeriodMinutes`リクエスト内の値がバケットの現在の保存期間より短い場合、HTTPステータスコードは `400 Bad Request。

関連情報

["非推奨: コンプライアンスのための PUT Bucket リクエストの変更"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。